



”失った歯をもう一度取り戻せたら”という気持ちは、虫歯や歯周病で歯を失ったときの切実な思いです。歯を失うということは歯根も失っているということで、これまでの治療法ではブリッジ(固定式)や入れ歯(取り外し式)により歯を入れる治療が行われてきました。しかしそれらの治療に伴う欠点を補うために、1960年ごろからインプラント(人工歯根)の研究と治療が行われるようになり、その後様々な改良が加えられ現在にいたっています。

I. インプラントとは

a) 材質

純チタンが使用されています。純チタンは生体への適合が良好で、整形外科治療における人工関節にも使用されています。

b) 特徴

歯科用インプラントとは、天然歯根の代用となる人工歯根^{B B B B}のことです。イオン化しにくいためアレルギー反応が少なく、骨によく結合します。手術により顎の骨に埋め込み6~12週間の治癒期間を経て、骨にしっかりと結合します。

c) 長所

ブリッジや入れ歯では、抜けた隣の歯が健康な歯であっても削らなければならないといった問題がありました。また入れ歯では粘膜である歯茎が噛む力を支えるため、自分の歯で物を噛む場合との差が大きく、食べ物にもある程度妥協せざるを得ないといった制限があります。インプラントは、単独で入れることができしかも骨と結合しているため、自分の歯に近い感覚で物を噛むことができます。

d) 短所

- ・保険がきかないため、費用が高い。
- ・埋入後の治癒期間を待つ分、治療期間が長くなる。
- ・治療が終わったあとに自分の歯以上に手入れをする必要があり、必ず定期検診が必要。
- ・コントロールされていない糖尿病やヘビースモーカーには、治療の適応にならない。

II. 症例

1) 上の前歯の治療例



上の前歯を抜いたあと隣の歯が健康であったためインプラント治療を選択



インプラント埋入後セラミックの白い歯を装着

2) 下の奥歯の治療例



右下大白歯の欠如



インプラント埋入後、治癒期間を経て支台部分の装着



上部構造物(冠)の装着

* 実際の治療法は口の中の状況により多岐にわたるため、詳細は担当医にお尋ねください。